マイキャリアヒストリー～多様性の中で生きる～

PE-0022　植村大輔

PE 資格取得者広しといえども、私ほどバラエティに富んだ経験を積んできた人は多くないと思います。

現在、SCZeus というシンガポールの事業会社で、日本のデータセンターの建設プロジェクトの管理をしております。実はこれが自身 7 社目になります。しかも国別にに見ると、日系が 3, シンガポール系が 2、米系 1、欧州系 1、すなわち、「日米亜欧」の 4 極を経験したことになります。また、業種もゼネコン、不動産、メーカー、金融、ベンチャー等多岐にわたっております。一見、バラバラなキャリアのようにも見えますが、その間、「大きな建設工事のプロマネ」というキャリアが中心軸としてがっちりあります。

最初の清水建設で 18 年務めて「飛び出した」(「飛び出させた」というべきかもしれません）のが 42 歳、そこから凡そ 4 年ずつ様々な経験をしてきました。PE 資格を取得したのが 37 歳の時ですので、それが転機のきっかけになったと言えます。

これだけ様々なキャリアを積むと、当然ながら良い時期、つらい時期、いっぱいありました。

そもそも清水建設を飛び出したのは、是非米国で働きたい、という 20 年来の夢があったためです。米系不動産企業の日本法人で建設のプロマネとして、「日本で頑張るので、結果が出せればいつか米国本社（サンフランシスコ）で働きたい」ということを入社の時から上司に伝え、4 年間で幸いにも結果が出せて、本社に呼んでもらったときは、天にも昇る気持ちでした。それが 2008 年 6 月、その 3 か月後と言えば、そう、リーマンショックです。このため予定したプロジェクトはほとんどが中止になり、社内もリストラの嵐、私も結局 1 年弱で帰国となりました。「ダイスケ、東京に戻ってくれ」といわれた瞬間に、「あ、これはクビになるために戻るのだな」とピンときましたが、1 か月後、そのとおり離れざるを得なくなりました。そこからが地獄のような日々でした。時期が時期だけに、国内での求人はほとんどなく、結局 7 カ月失業をしました。47 歳、働き盛りの頃です。その間、私のキャリアに合

う求人情報をつかむのは 2 週間に 1 回程度、しかもそのすべてが外資系でした。しかも採用されたのもシンガポール系企業でした。日本人たる私が日本にいて外資からしか求人が来ない、終身雇用という日本の雇用システムの負の側面を思い切り体感しました。

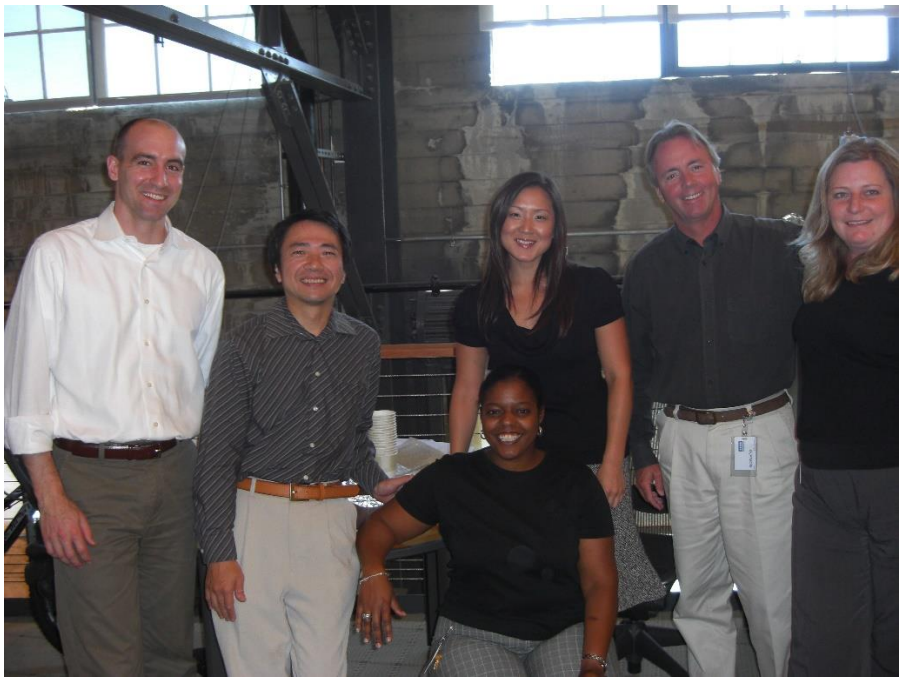
そんな波瀾万丈の繰り返しですが、42 歳で清水を離れたことを後悔することは全くなく、良かったと思えることばかりです。なんと言っても、新しい経験を積むたびに、どんどん視点が広がり続けている、というところが大きいと感じます。清水建設にいたころは「清水の常識こそ日本の常識」と思っていましたが、米系企業に移って、そうではないことに気づきました。米国に住んで「米国の価値観こそグローバルスタンダード」と思っていましたが、シンガポール系に移ると、それも正しくないこともよーく解りました。

また、人脈がどんどん広がっていることに幸せを感じ続けております。前職で出会った人に次の会社で業務発注したり、部下として呼んだり、といったことをいくつもやっています。まさしく「一期一会」ですね。

さらには、一つの業務を進める際、常に一歩広い視点で業務ができるようになってきていることを感じます。清水の時はトンネル等公共事業の現場にいて、「土木」という視点でのみ仕事をしていた感じですが、その後「物流施設」「洋上風力」そして現在は「データセンター」、業界は違ってもプロマネとして共通するものがまずありきで、それが日々の業務の礎となっています。そういえば、私も JSPE で影響を受けて取得した PMP、これは土木だの建築だの機械だの、別れていませんよね。共通するものを持っておくことが重要と、様々な経験を通して実感します。

JSPE で大変お世話になった、故鹿野憲子さんが以前ラジオ番組で語っておられたメッセージは私のキャリアそのものであり、皆様にも元気勇気をもたらしてくれるものと思います。そのメッセージを最後に筆を置きます。

次世代にワクワクの心
一歩踏み出す勇気
多様性の中で生き抜く力



(2008 年、San Francisco の同僚と)